

第21号特別分析トピック:南米の穀物等生産が世界の需給に与える影響

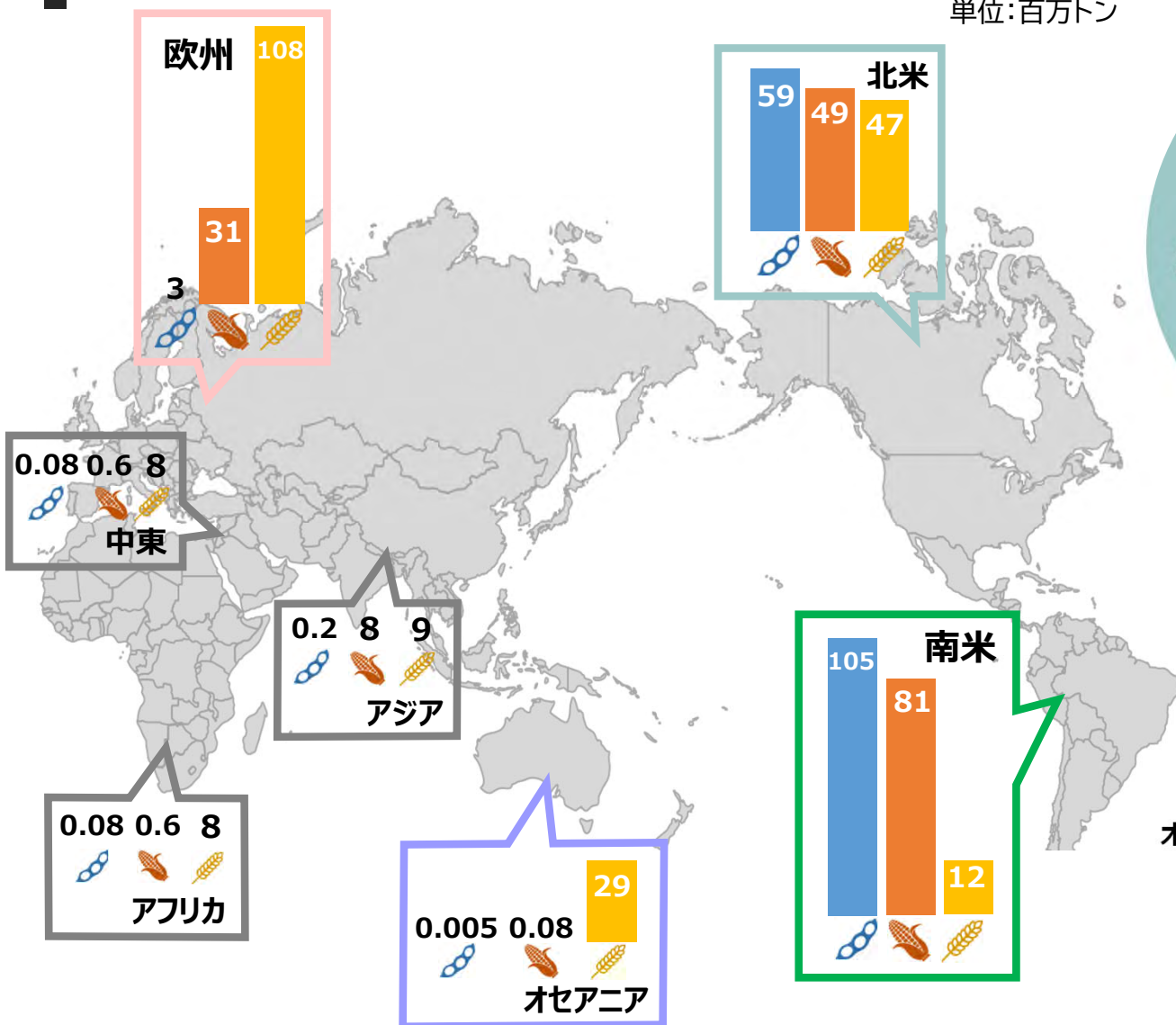
南米の位置付け

穀物等輸出における南米の位置付け

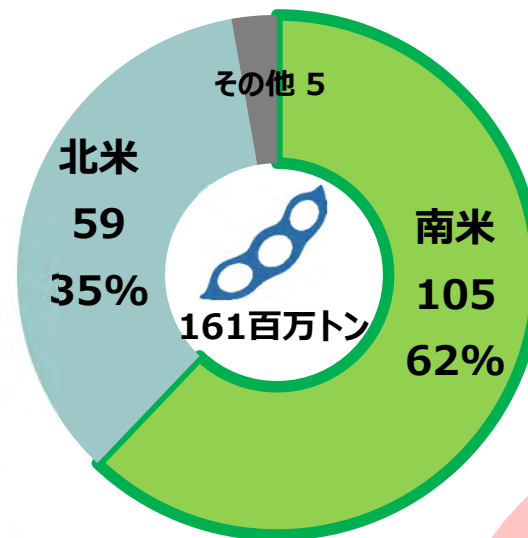
○ 南米は、大豆、とうもろこしにおいて、それぞれ世界一位の輸出地域(2022/23年度)。

地域別の輸出数量 (2022/23年度)

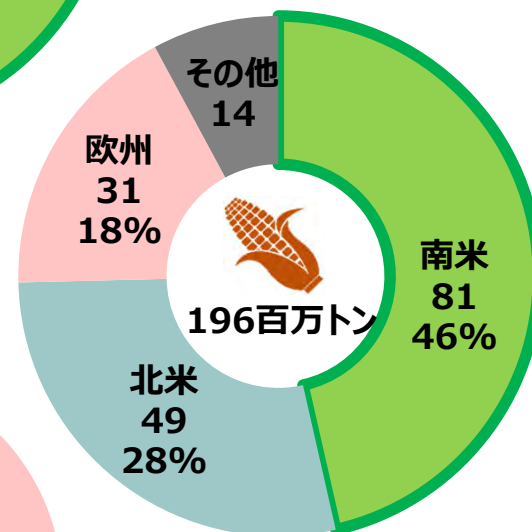
単位:百万トン



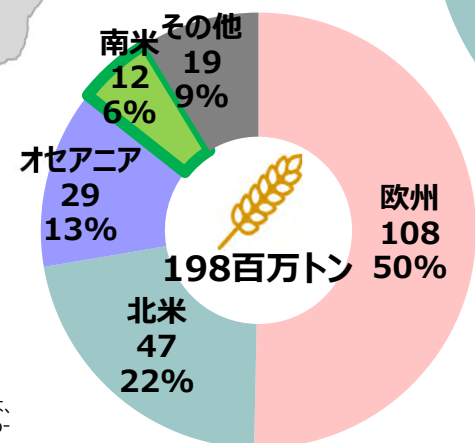
大豆



とうもろこし



小麦



資料: USDA (2022/23)

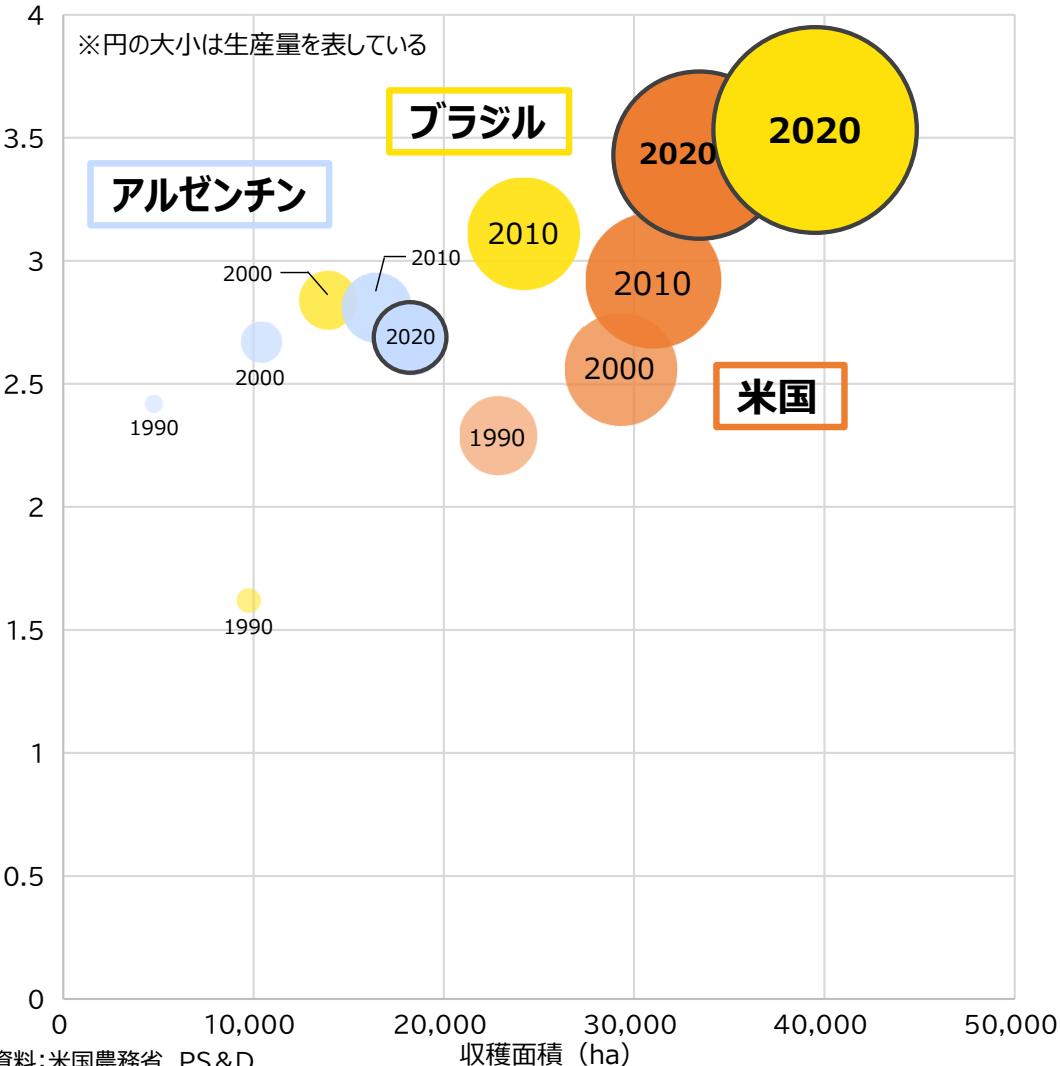
注: レイアウト上、実際の位置とは異なる。

注: 欧州は、「European Union」、「Former Soviet Union - 12」、「Other Europe」の合計、南米は、「South America」、「Caribbean」、「Central America」の合計、アフリカは「North Africa」、「Sub-Saharan Africa」の合計、アジアは、「East Asia」、「South Asia」、「Southeast Asia」の合計とした。

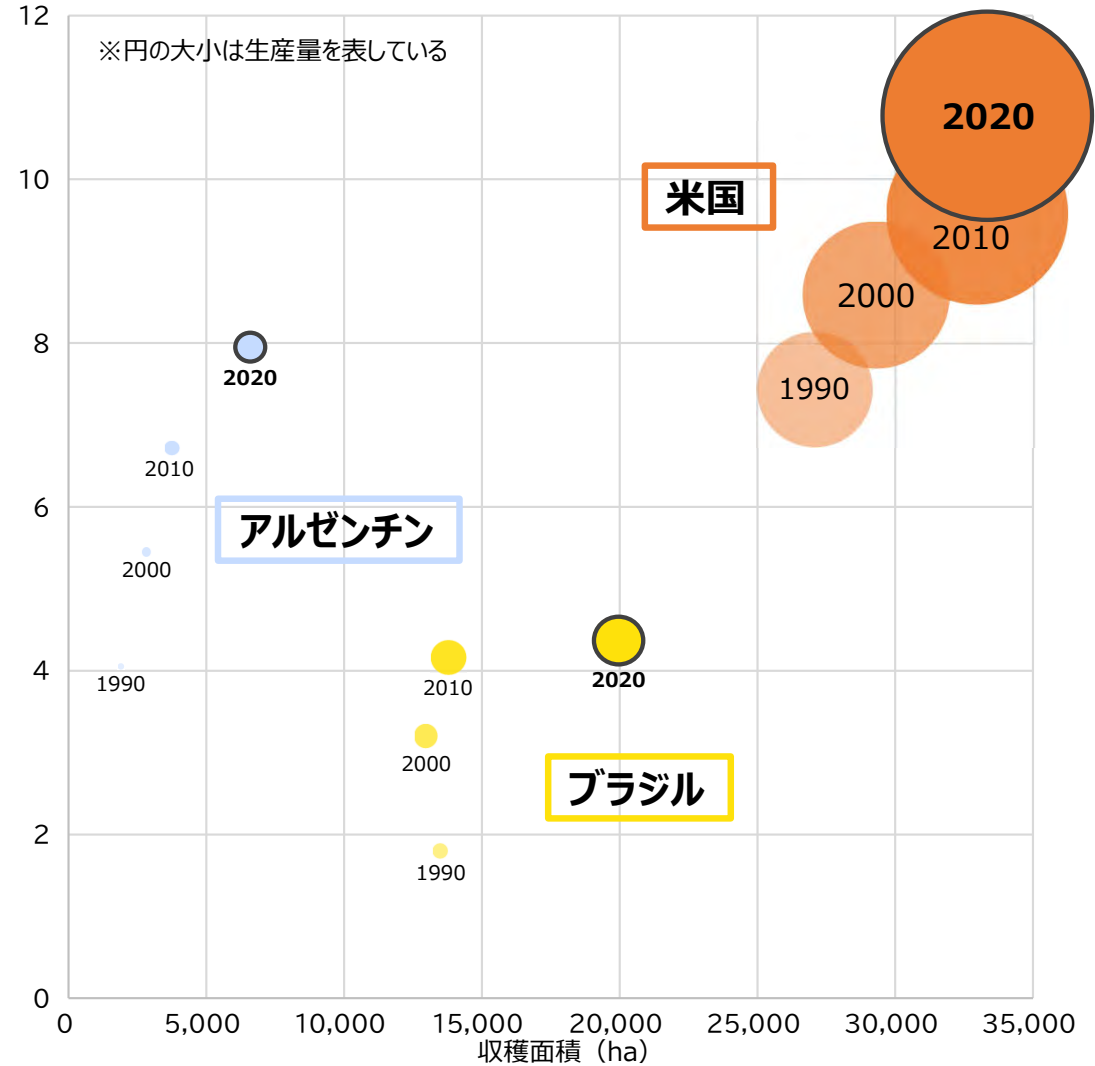
生産量・単収・農地面積の推移

- 大豆は、米国は単収、ブラジル、アルゼンチンは収穫面積の増加が生産拡大に大きく寄与。2010年代後半にはブラジルの生産量がアメリカを抜き、世界1位となっている。
- とうもろこしは、主に単収の伸びが生産拡大に寄与。一方、未だにブラジルの単収はアメリカの半分以下であり、生産余力はまだ十分にあるといえる。

単収 (t/ha) ■大豆の生産量・単収・収穫面積の推移



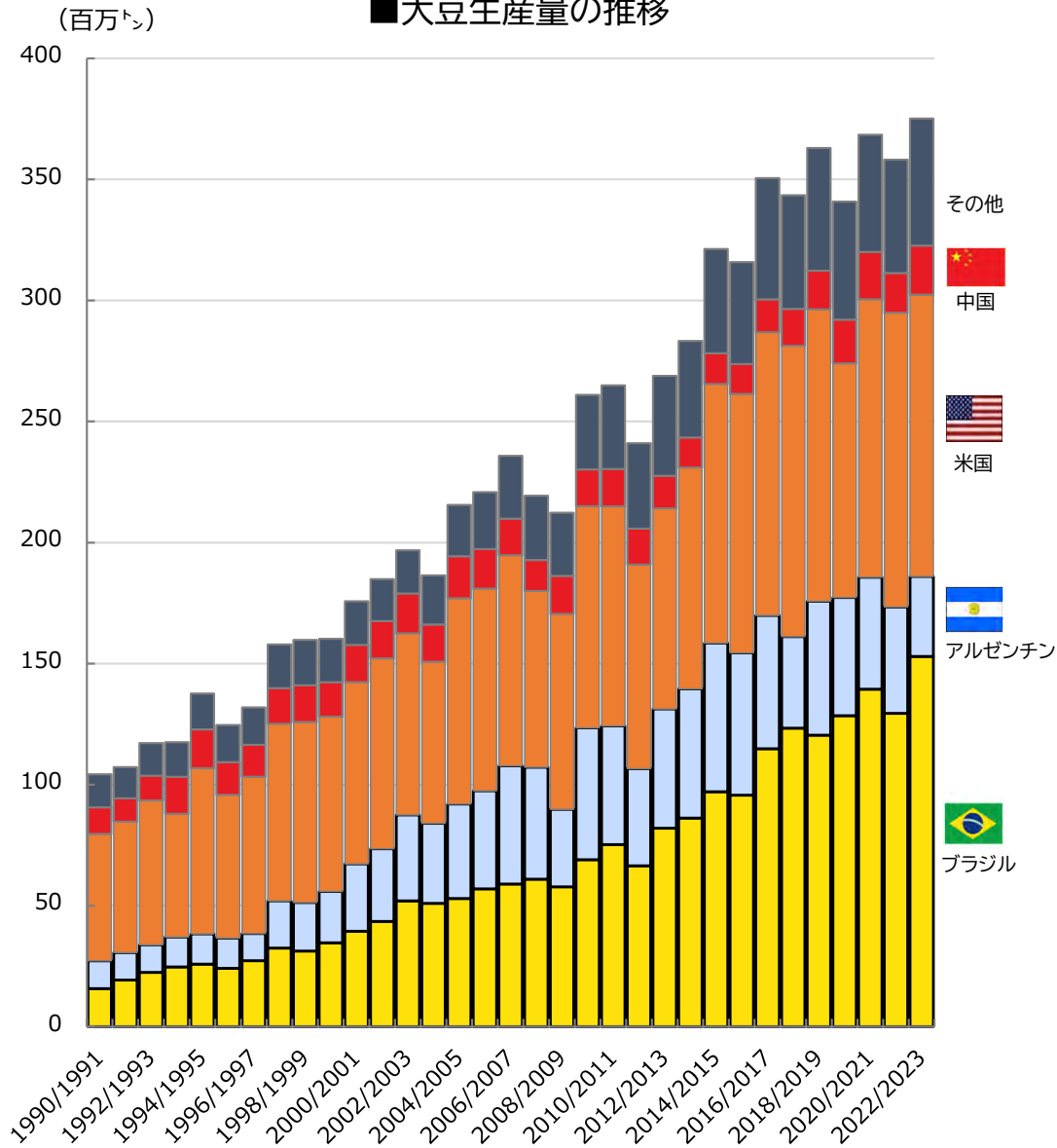
単収 (t/ha) ■とうもろこしの生産量・単収・収穫面積の推移



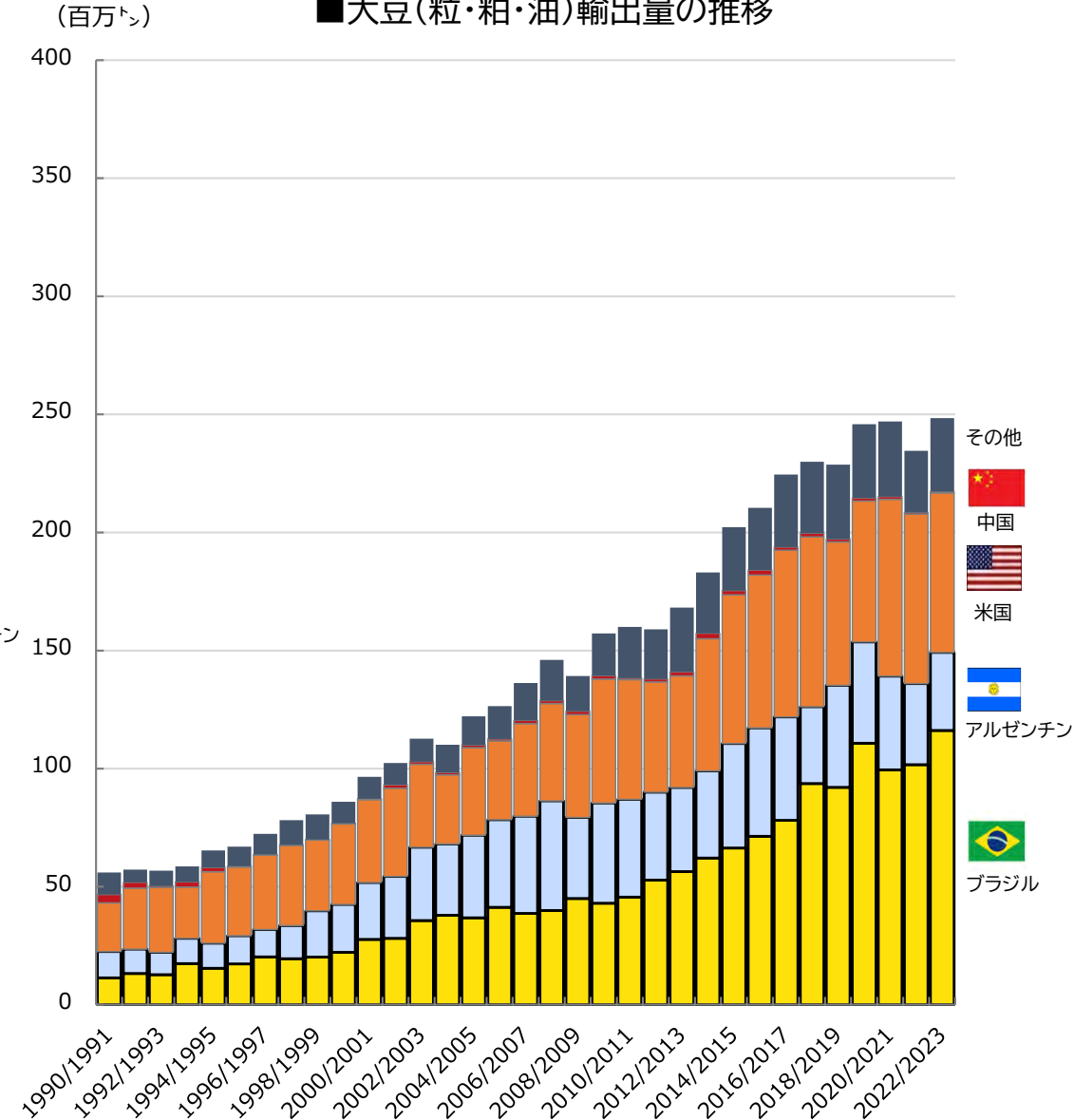
大豆の生産・輸出量の長期推移

○ 2000年代に入り、南米地域における大豆の生産量・輸出量は大きく増加。ブラジル、アルゼンチンともに、世界有数の大豆輸出国となっており、世界の大豆市場に与える影響は大きい。

■大豆生産量の推移



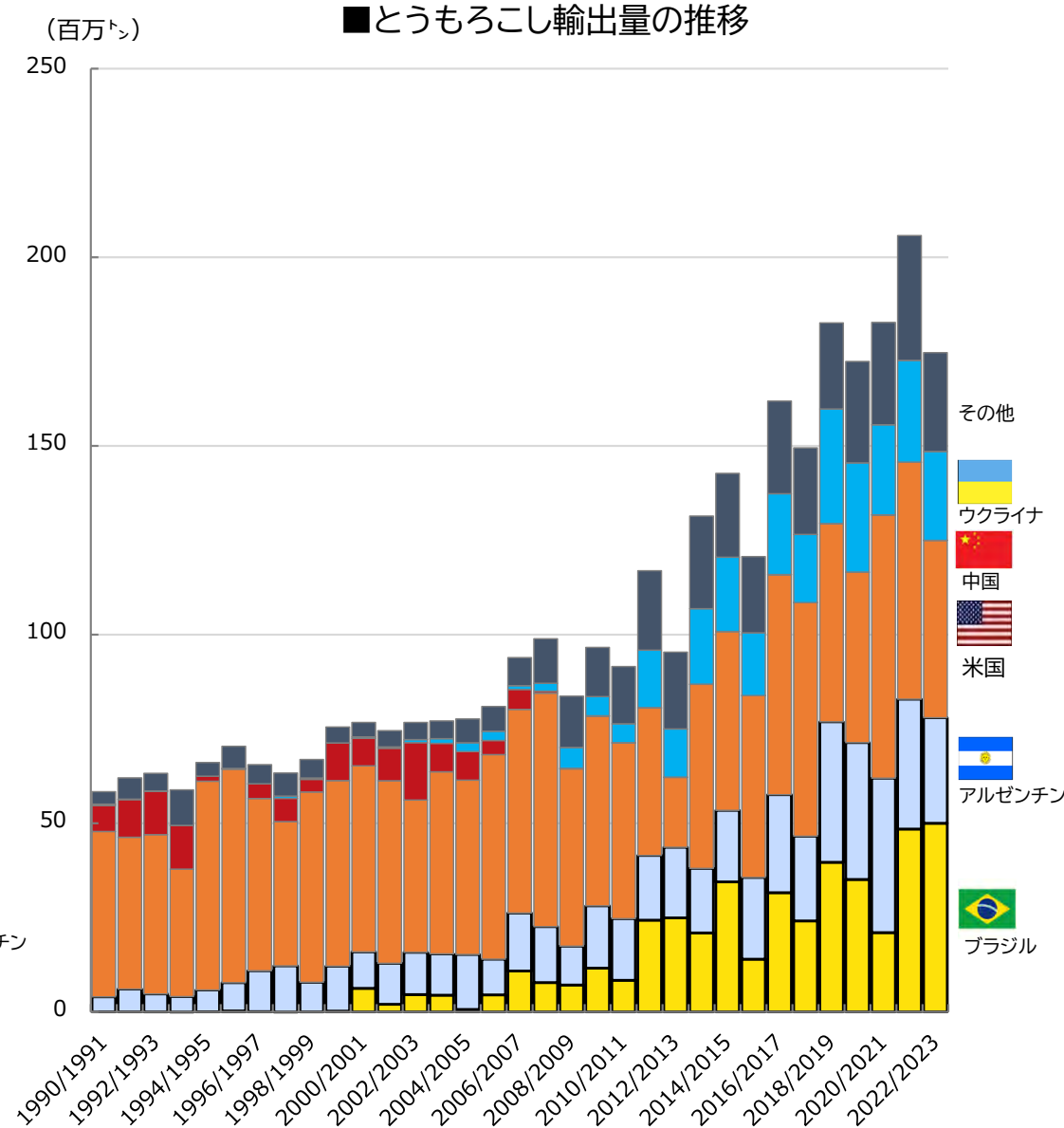
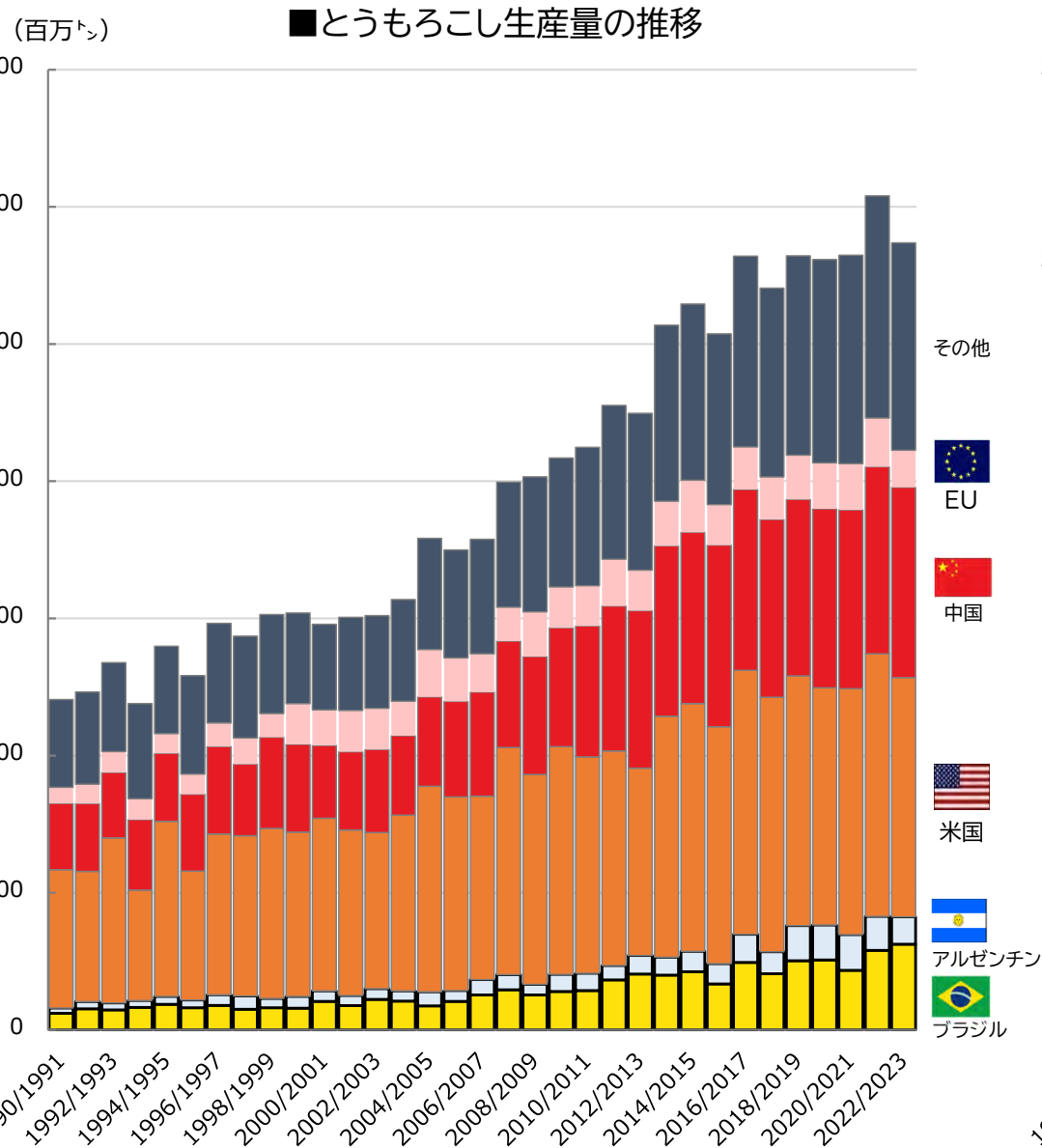
■大豆(粒・粕・油)輸出量の推移



資料:米国農務省 PS&D
注:大豆の輸出量は大豆粒、大豆粕、大豆油の合計。

とうもろこしの生産・輸出量の長期推移

○ 南米地域におけるとうもろこしの生産量・輸出量は増加傾向で推移。大豆ほど生産・輸出国が偏在している訳ではないが、ブラジル・アルゼンチンの生産動向が世界のとうもろこし市場に与える影響は大きい。



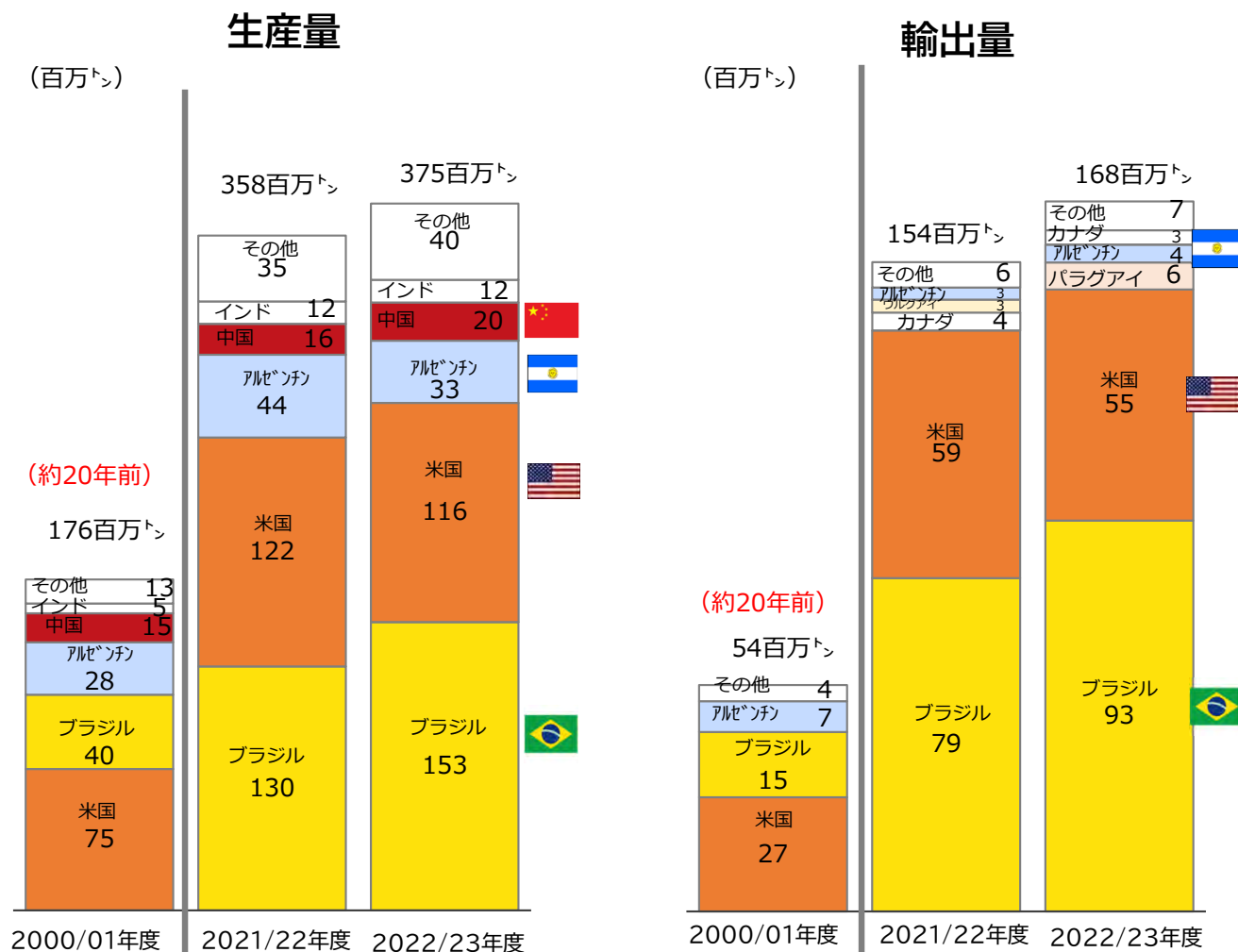
資料: 米国農務省 PS & D
注: 大豆の輸出量は大豆粒、大豆粕、大豆油の合計。

大豆の動向

世界の大豆の生産・輸出

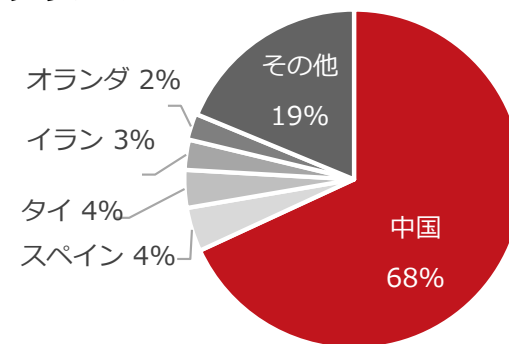
- 2021/22年度及び2022/23年度において、ブラジルは世界1位の大豆輸出国。
- 大豆の主な輸入国は中国であり、ブラジルや米国等から調達。

■大豆の生産・輸出(世界)

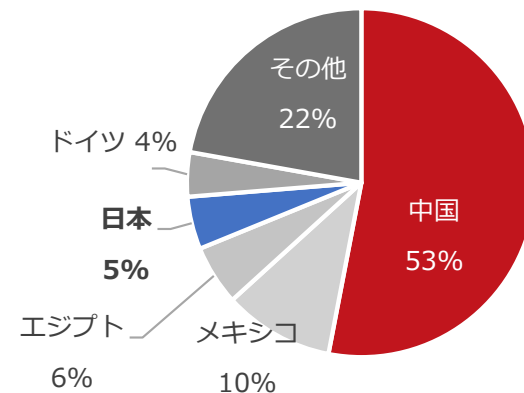


■大豆の輸出先(2022年)

ブラジル



米国



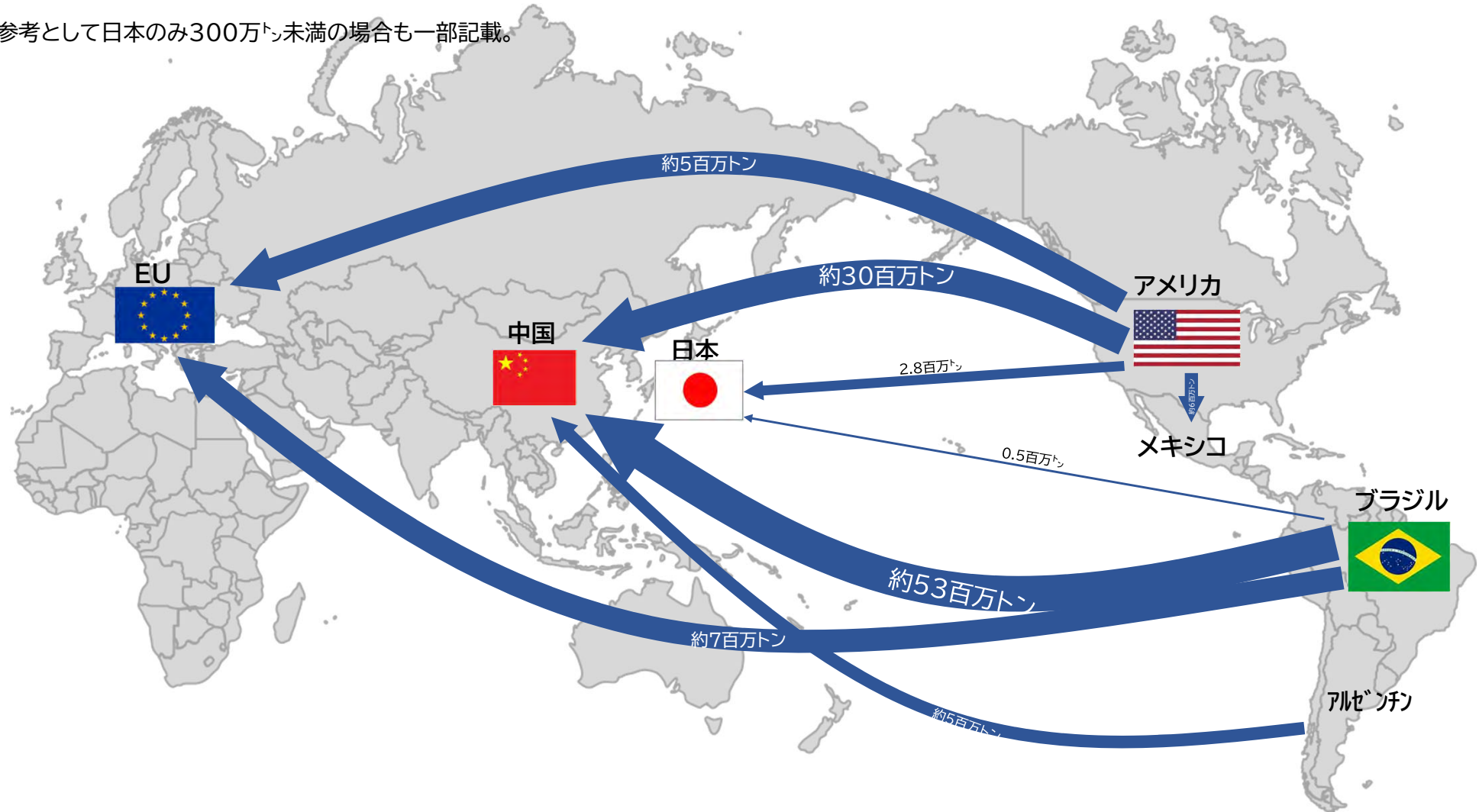
資料:Global Trade Atlas

大豆の貿易フロー(2022年)

○ 大豆の国際貿易については、2大生産国である、アメリカ、ブラジルを始めとしたアメリカ大陸から、主に中国やEUに輸出されている。

※ 300万トン以上輸出している貿易フローを作図

※参考として日本のみ300万トン未満の場合も一部記載。



資料:S&P Global Trade Atlasを基に農林水産省が作成。HSコード:1201で抽出した数値。

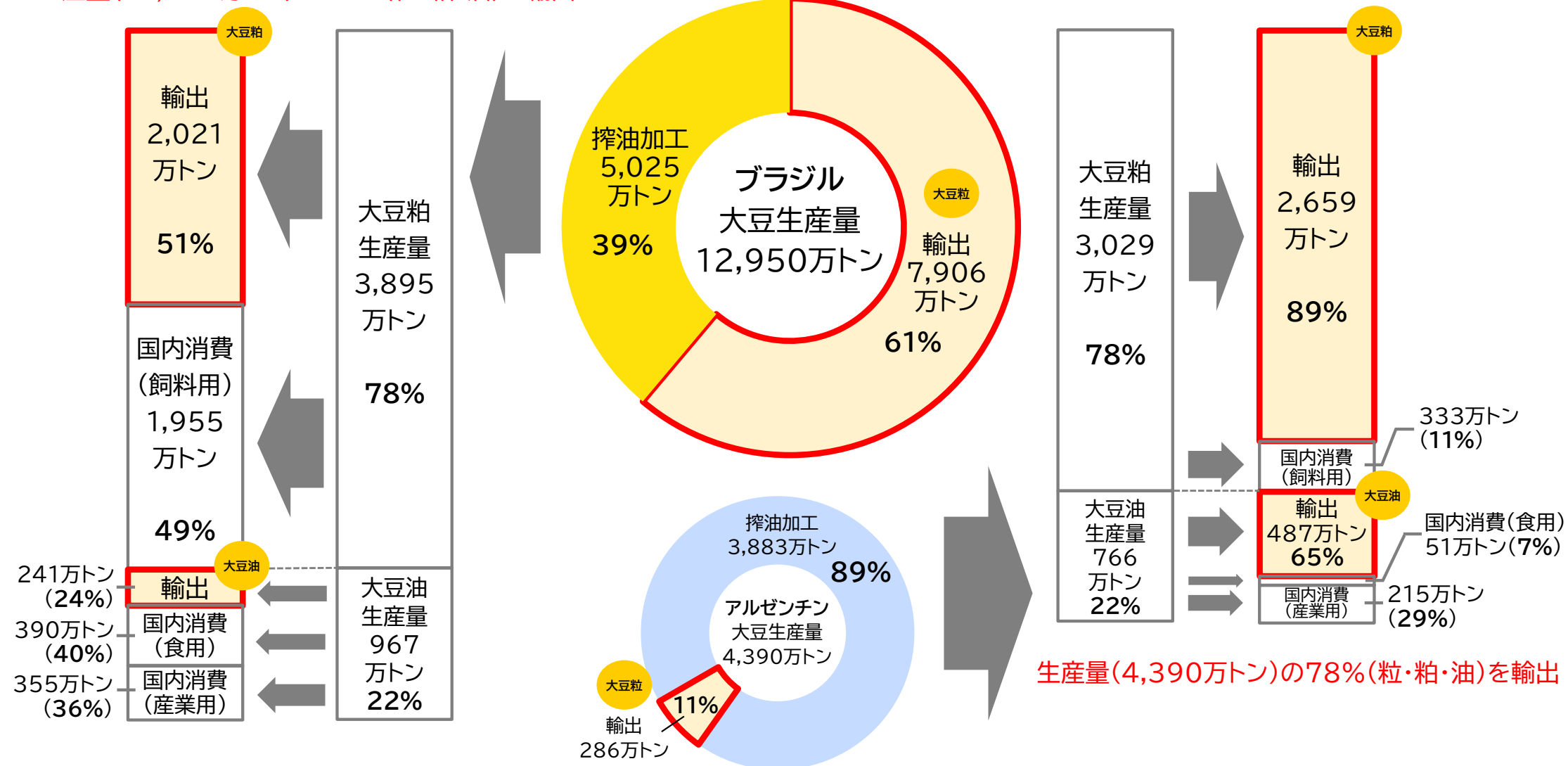
ただし、EUは輸入量から逆算した数値。

注:レイアウトの関係から実際の国の地理上位置とは異なる場合がある

ブラジル・アルゼンチン大豆の利用状況(粒・粕・油)

○ ブラジル、アルゼンチンともに生産した大豆の約8割を輸出しているが、ブラジルは、加工されていない農産物の輸出は免税されることから、約6割を大豆粒で輸出している。アルゼンチンは、加工品の輸出税が低く設定されていることから、約9割が搾油加工に回される。

生産量(12,950万トン)の79%(粒・粕・油)を輸出

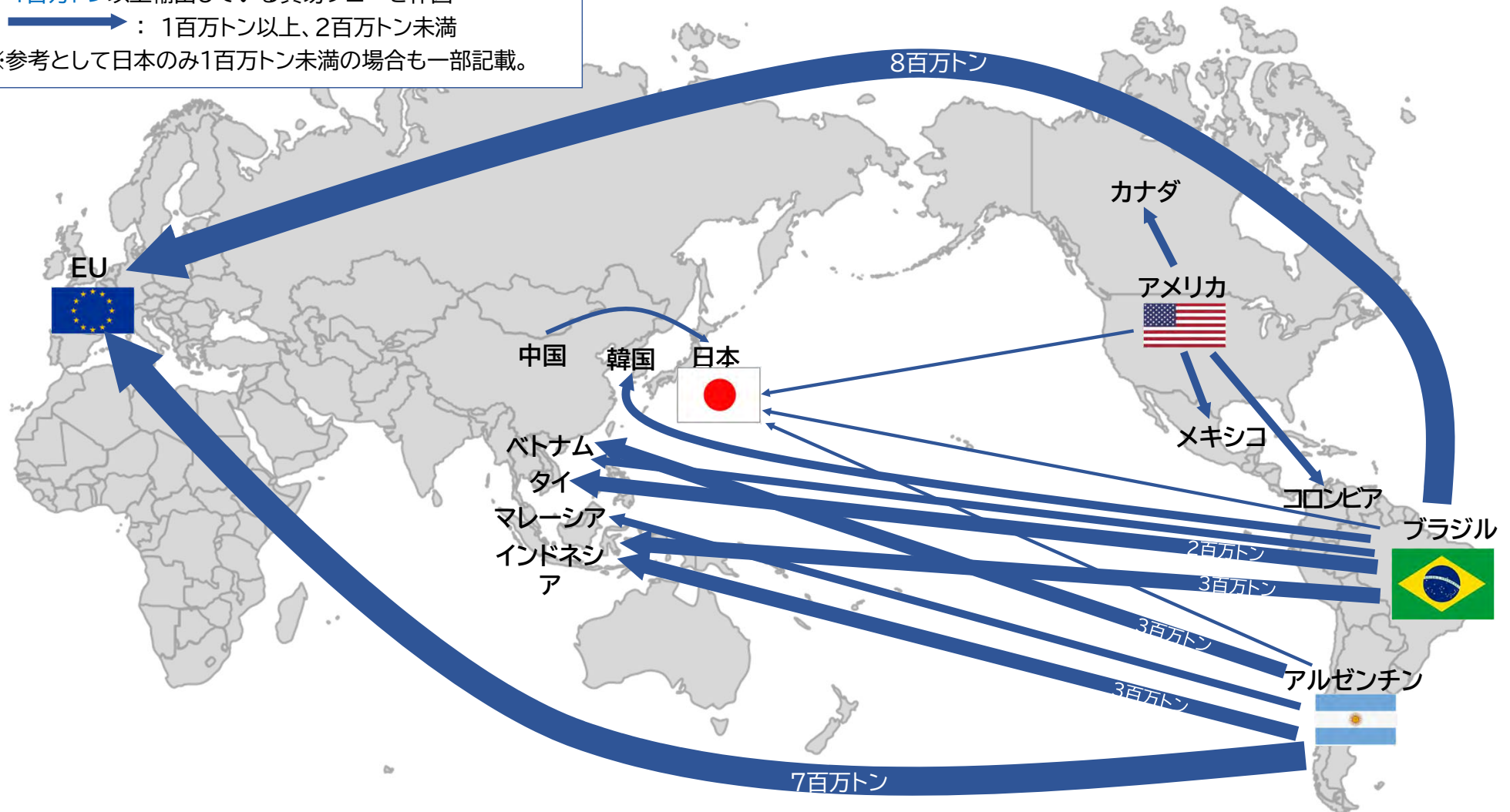


生産量(4,390万トン)の78%(粒・粕・油)を輸出

大豆ミールの貿易フロー(2022年)

- 大豆ミールの輸出について、ブラジルやアルゼンチンからEUやアジア向けの輸出が多い。
- 日本は中国、ブラジル、米国、アルゼンチンなどから輸入しているが、数量は比較的小さい。

● 1百万トン以上輸出している貿易フローを作図
→ : 1百万トン以上、2百万トン未満
※参考として日本のみ1百万トン未満の場合も一部記載。



資料:S&P Global Trade Atlasを基に農林水産省が作成。

HSコード:230400で抽出した数値。

EUは輸入量から逆算した数値。

注:レイアウトの関係から実際の国の地理上位置とは異なる場合がある

2022/23年度の大豆の生産・輸出動向

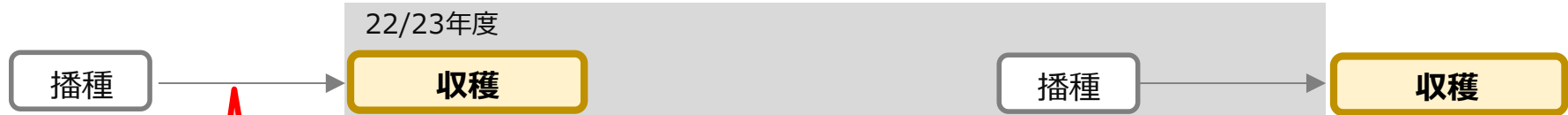
2022年

2023年

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



米国



ブラジル



米国で不作
(干ばつ)

→ 伯の播種面積増加 →

伯で豊作見込み
(過去最高)

主な動向 (2022/23年度)



米国

22/23年度は、夏季のコーンベルトの高温から大幅な生産・輸出減少



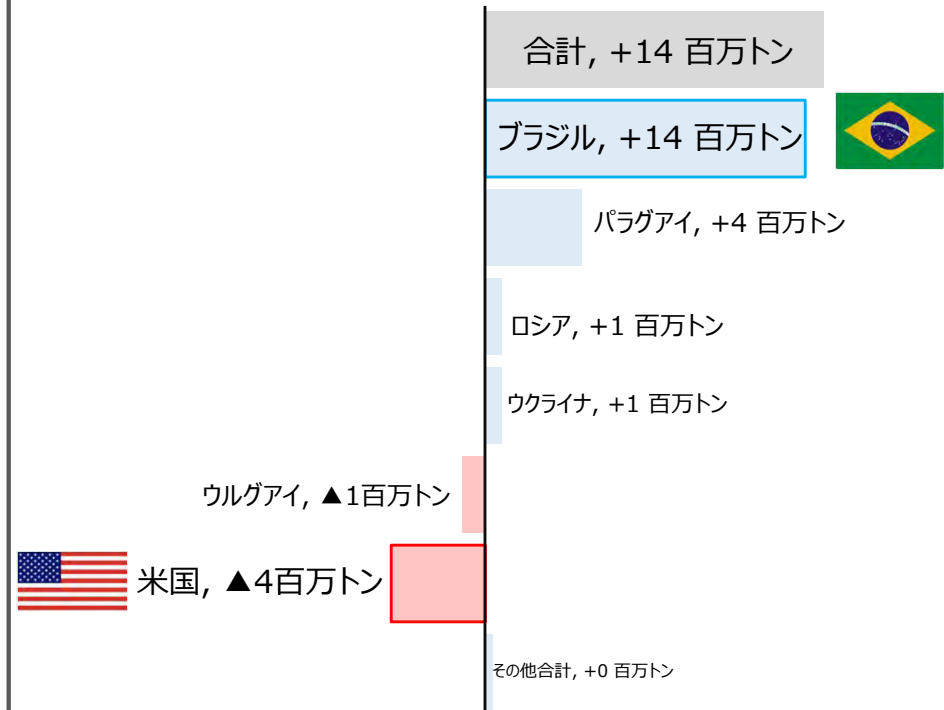
ブラジル

22/23年度は、播種面積増加等により過去最高の生産量・輸出量見込み。主要産地マト Grosso 州の大豆収穫進捗率99%で、過去5年平均(90%)より進展。

■ 2022/23年度の通期見通し

22/23年度の輸出量は、米国の干ばつ影響はあるものの、ブラジル等の豊作により前年度比で+14百万トン

2022/23年度 輸出量の対前年度比

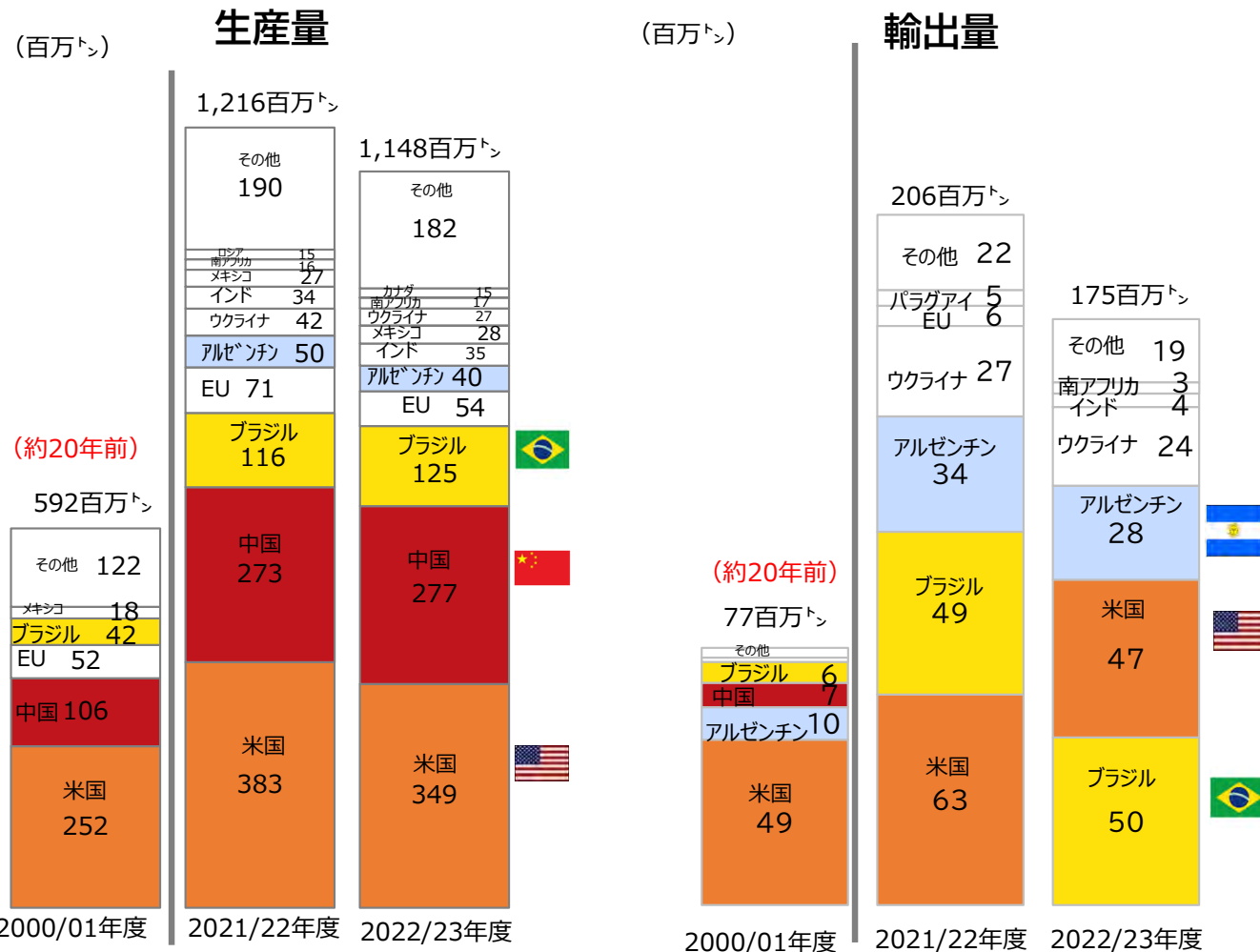


とうもろこしの動向

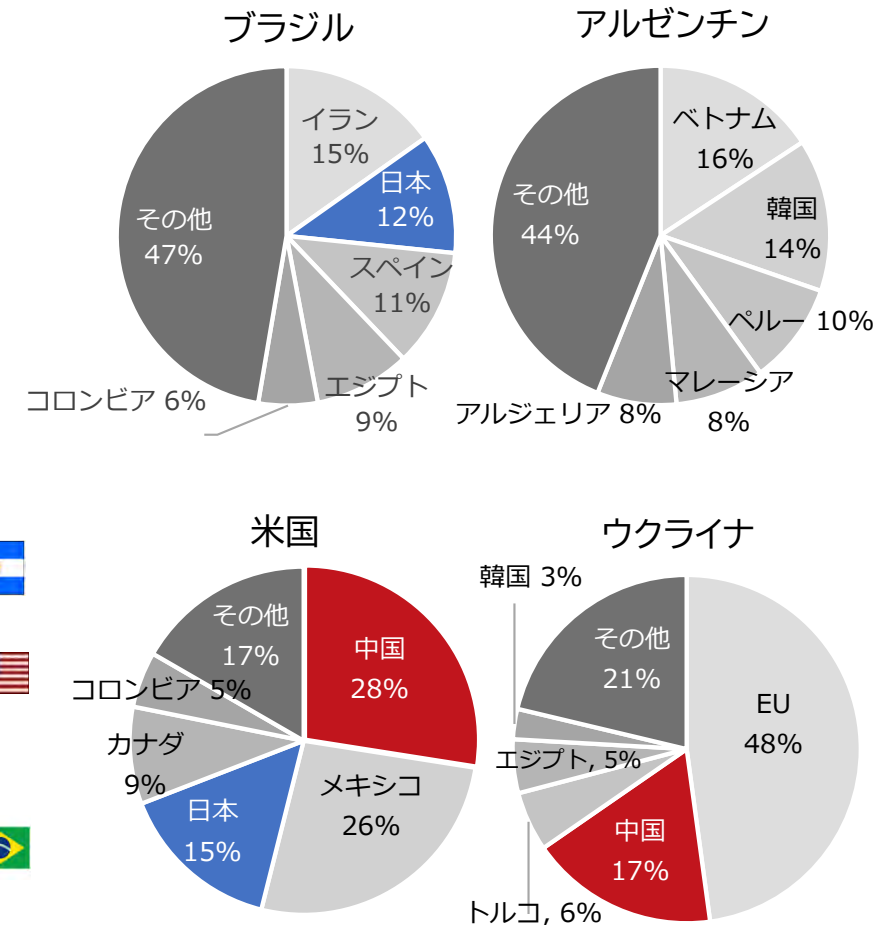
世界のとうもろこしの生産・輸出

○ 2022/23年度については、米国の高温・干ばつによる生産減少等もあり、ブラジルが世界1位、アルゼンチンが世界3位の輸出国となる見込み。ウクライナの減産分はブラジルの増産等で一定程度カバーされた。

■とうもろこしの生産・輸出(世界)



■とうもろこしの輸出先(2022)



資料: Global Trade Atlas

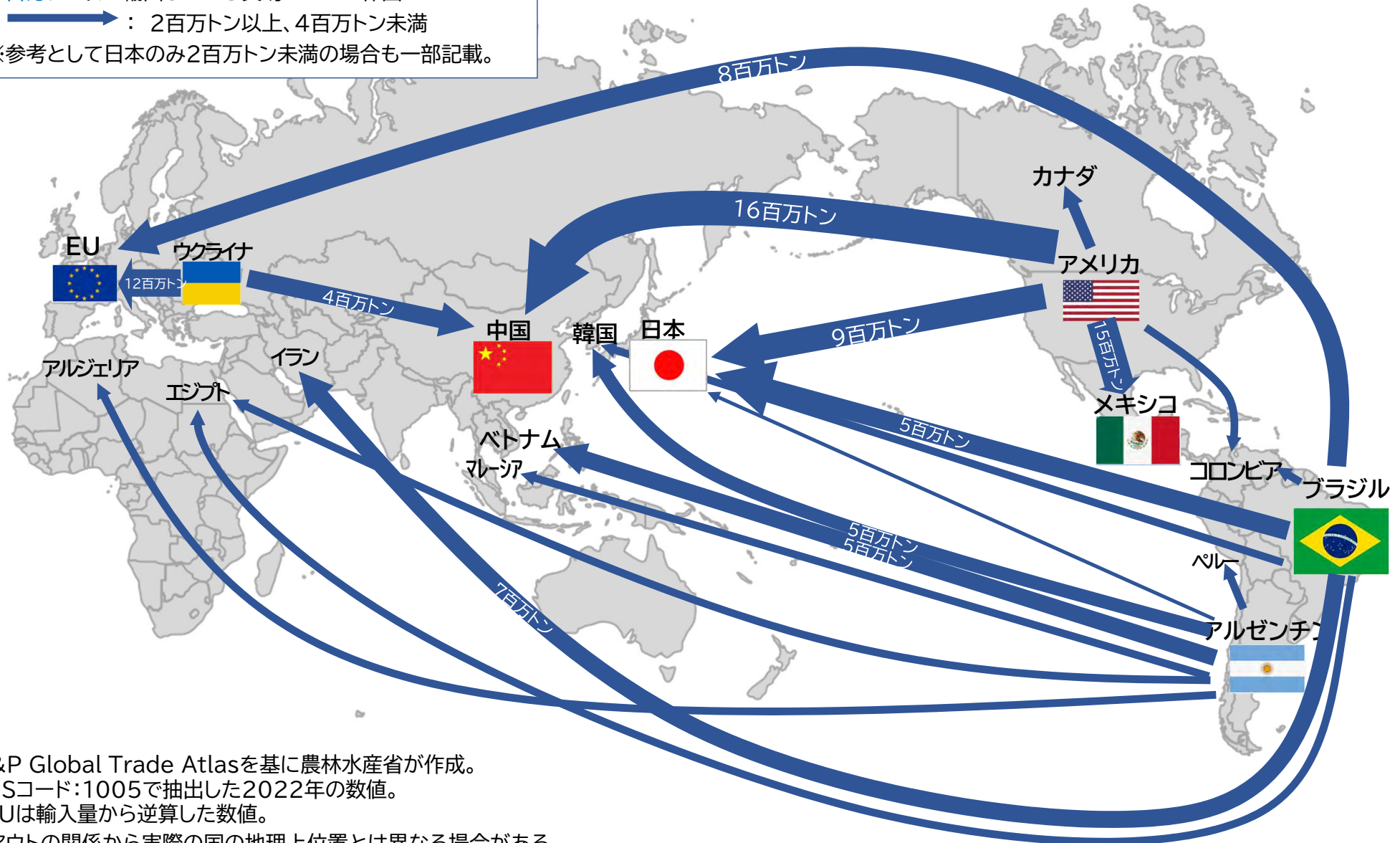
とうもろこしの貿易フロー(2022年)

○ とうもろこしの輸出について、米国から、中国、日本、中米などに輸出され、ブラジルやアルゼンチンから、アジア、中近東、EUなどに輸出されている。ウクライナからは、EU、中国などに輸出されている。

● 2百万トン以上輸出している貿易フローを作図

→ : 2百万トン以上、4百万トン未満

※参考として日本のみ2百万トン未満の場合も一部記載。



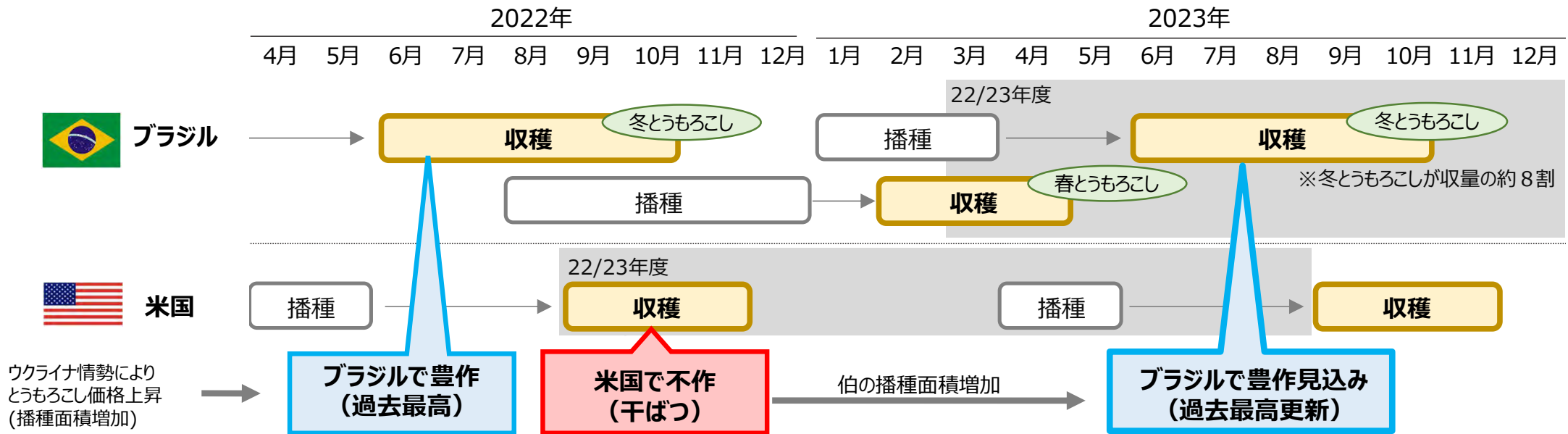
資料:S&P Global Trade Atlasを基に農林水産省が作成。

HSコード:1005で抽出した2022年の数値。

EUは輸入量から逆算した数値。

注:レイアウトの関係から実際の国の地理上位置とは異なる場合がある

2022/23年度のとうもろこしの生産・輸出動向



主な動向 (2022/23年度)



米国

夏季のコーンベルトの高温から大幅減産



ブラジル

2年連続で生産量が過去最高更新見込み。冬とうもろこしの作付進捗は主産地のマト Grosso 州では99%とほぼ完了

■ 2022/23年度の通期見通し

輸出量は米国等の干ばつ影響等により減少するものの、2年連続のブラジル豊作により在庫水準はウクライナ戦争前以上を維持

2022/23年度 輸出量の対前年度比

合計, ▲31百万トン

ブラジル, +2 百万トン

インド, +1 百万トン

ウクライナ, ▲3百万トン

EU, ▲4百万トン

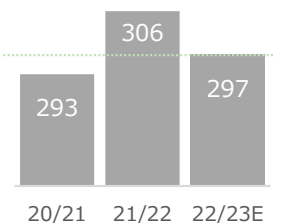
アルゼンチン, ▲6百万トン



米国, ▲16百万トン

その他合計, ▲4百万トン

(参考) 期末在庫の推移
(百万トン)

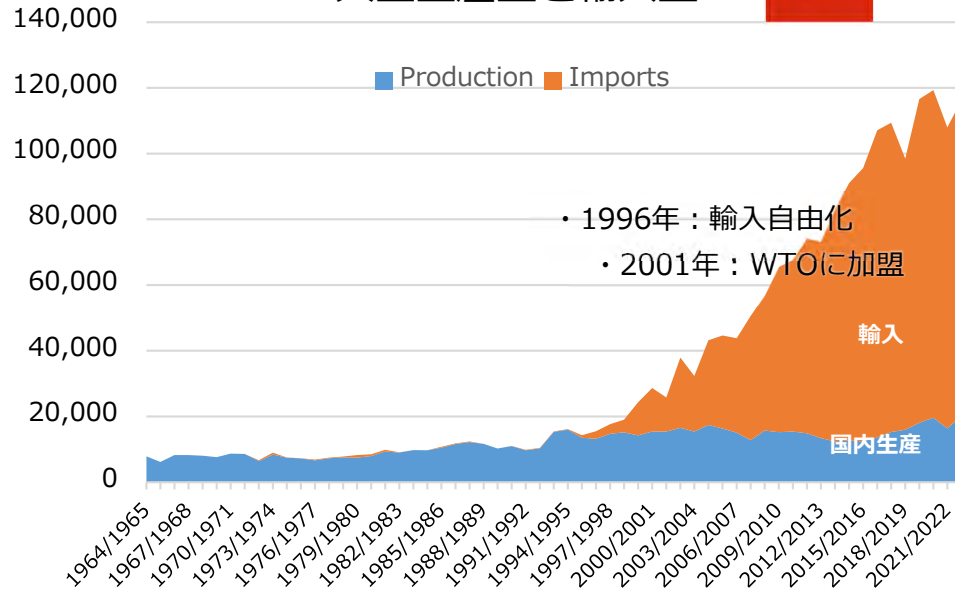


中国の大豆・とうもろこし需要

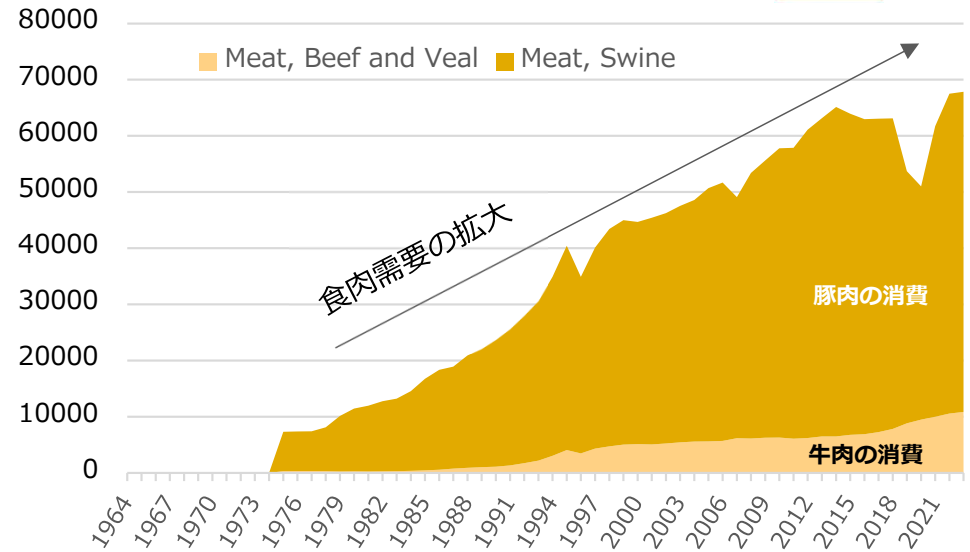


○ 穀物やとうもろこしはほぼ自給。大豆は、2000年頃以降、食肉や油脂需要拡大に伴い輸入が大幅増加。

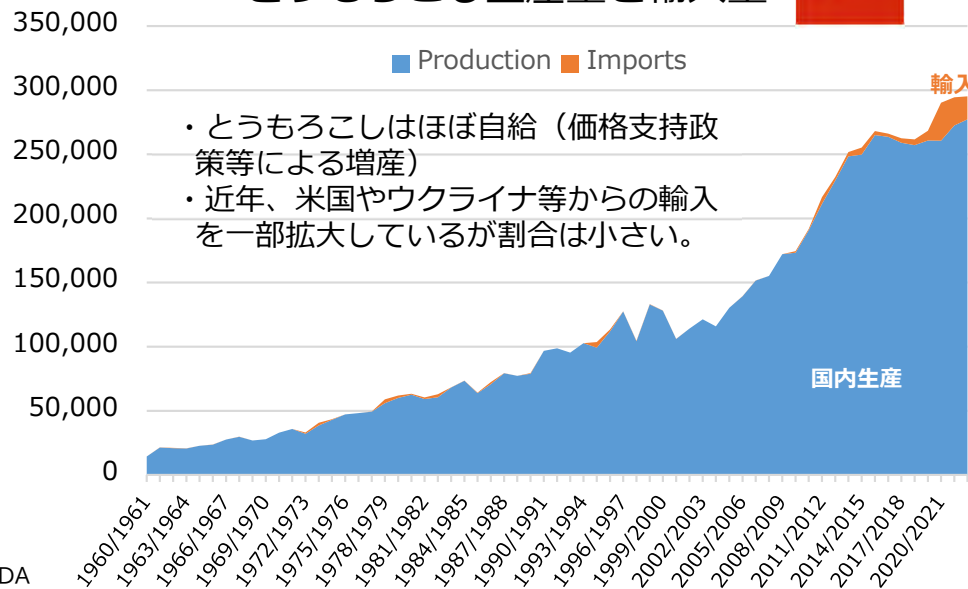
大豆生産量と輸入量



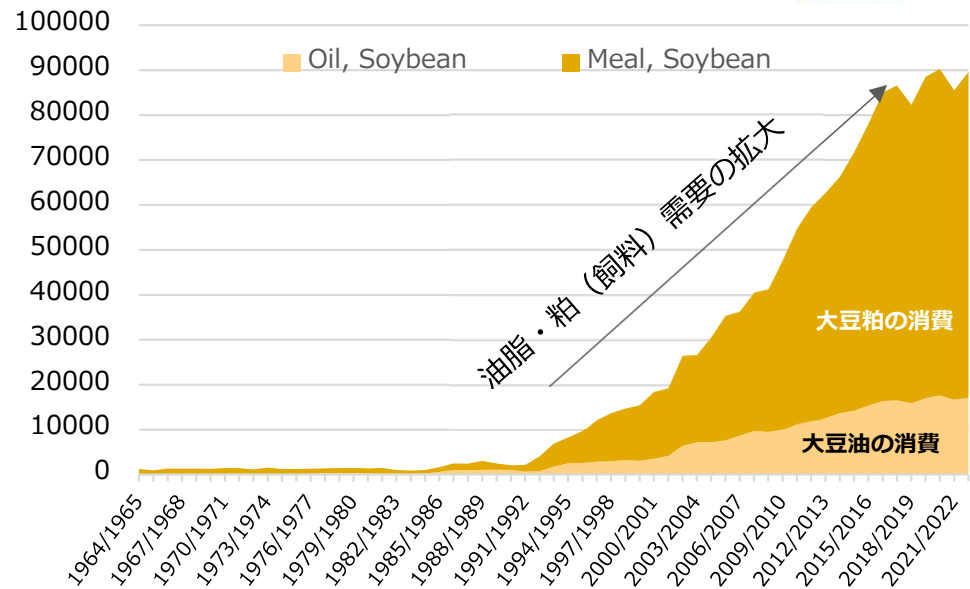
牛肉と豚肉の消費量



とうもろこし生産量と輸入量



大豆油・粕の消費量



参考

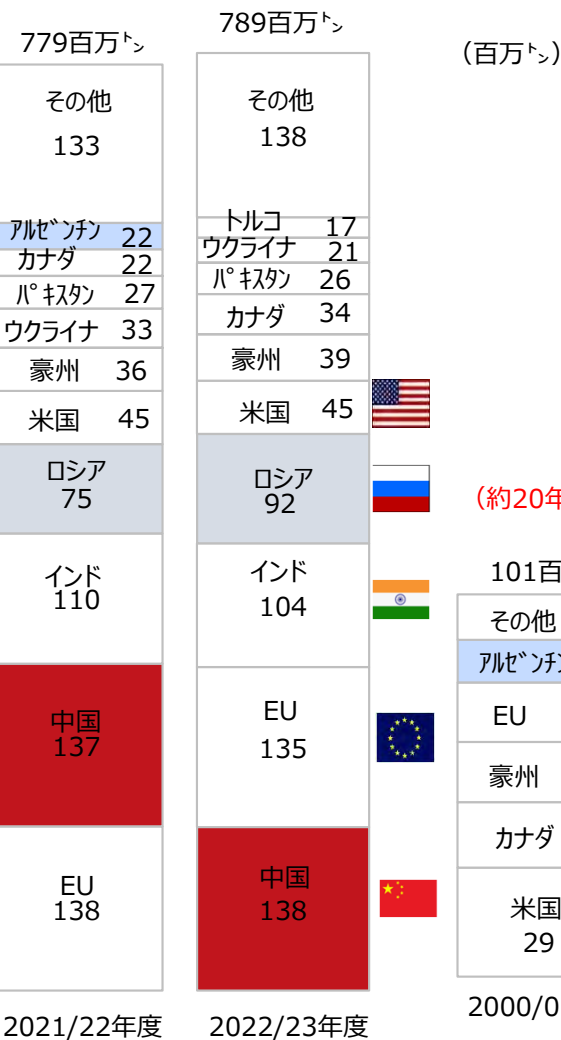
(小麦の動向)

(参考)世界の小麦の生産・輸出

- 近年、小麦の輸出国は一定程度分散しており、南米の規模は小さい。中国は小麦を自給。
- アルゼンチンでは、乾燥気候でも生育可能な遺伝子組み換え小麦を開発しており、今後の南米等での栽培状況等に留意。

■小麦の生産・輸出(世界)

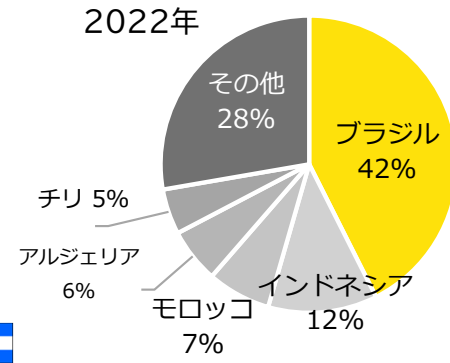
生産量



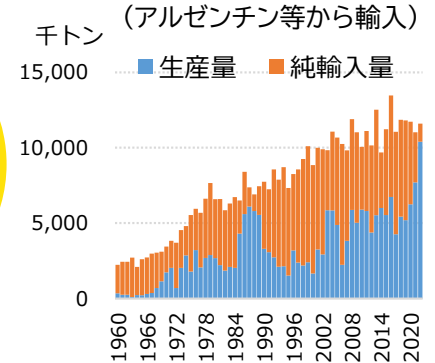
輸出量



アルゼンチンの輸出先



ブラジルは純輸入国



ブラジルでは主に南部で栽培されているが、干ばつに強い品種で北部に作付けができれば収穫量を大幅に増やす可能性がある。

GM小麦をめぐる動向

HB4小麦とは・・・

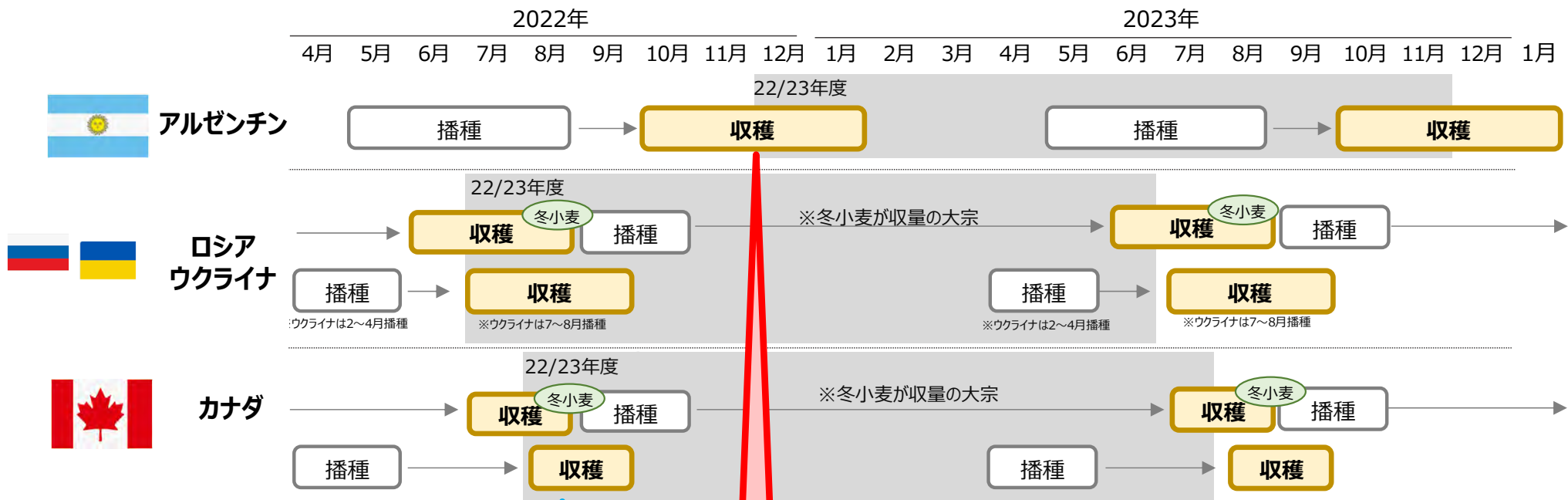
アルゼンチン企業バイオセレス社が開発した、干ばつ耐性と除草剤グルホシネートアンモニウムに対する耐性を有する遺伝子組み換え小麦

HB4小麦の動向

2021年7月	アルゼンチン当局が栽培承認(世界初のGM小麦承認)
2021年11月	ブラジル当局がHB4小麦の輸入を承認
2022年	コロンビア、ニュージーランド、オーストラリアが販売を承認
2023年3月	ブラジル当局がHB4小麦の栽培を承認

出所: JETRO、新聞報道等

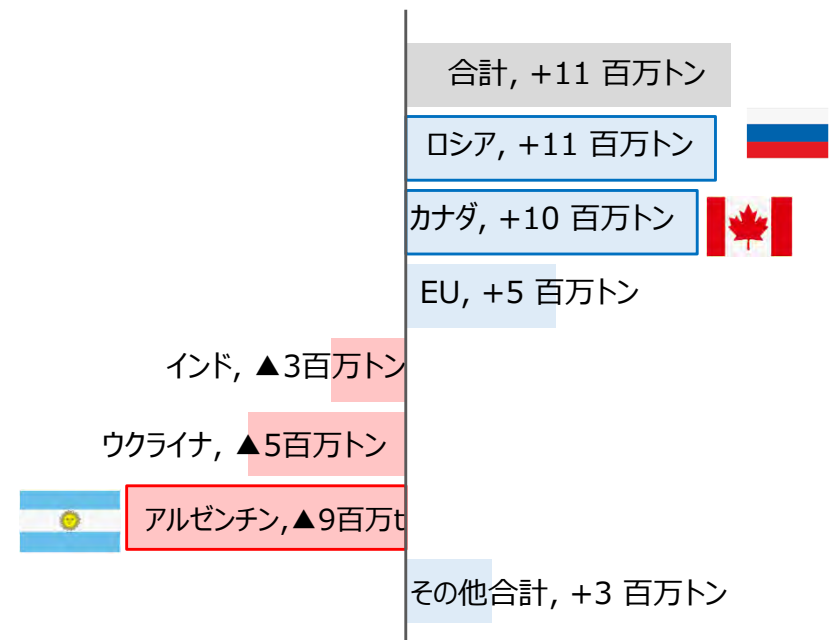
(参考)2022/23年度の小麦の生産・輸出動向



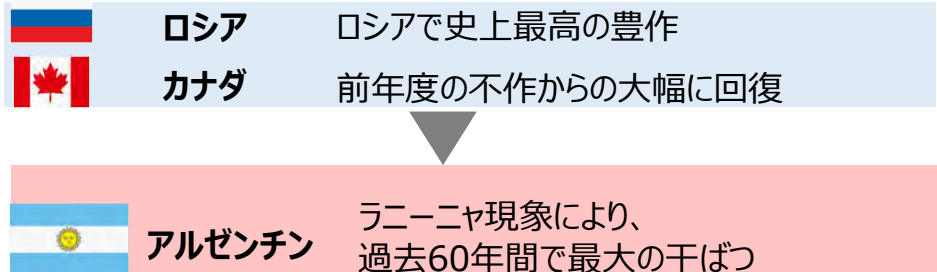
露・加で豊作

アルゼンチン 干ばつ

2022/23年度 輸出量の対前年度比



主な動向 (2022/23年度)



■ 2022/23年度の通期見通し

アルゼンチンの干ばつ影響等があるものの、ロシア・カナダ等の豊作により輸出量は前期比+11百万トン見込み